

国立大学法人鳥取大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

鳥取大学は、教育研究の理念として「知と実践の融合」を掲げ、高等教育機関としての大学の役割である、人格形成、知識の伝授、能力開発、知的生産活動、文明・文化の継承と発展などに関する学術を教育・研究するとともに、知力のみでの教授ではなく、これを実践できる能力も養成することを目指している。第2期中期目標期間においては、社会の中核となり得る教養豊かな人材を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて、学長のリーダーシップの下、「山陰がん認定医療スタッフ育成インテンシブコース」を鳥根大学と合同で設置するとともに、キャリア形成支援やインターンシップを推進しているほか、習熟度・達成度に応じた英語教育の充実等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、他大学との連携を促進し、獣医学教育の充実・強化を図ることを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、「岐阜大学応用生物科学部・鳥取大学農学部共同獣医学科」の平成25年度学生受入れに向けて設置準備委員会を開催し、教育体制、入試方法、予算要求等の運営に関する検討を行っているほか、公開教育フォーラム「共同獣医学科って何？」を開催している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 子育て・介護等のライフイベントと研究活動の両立を支援するため、「研究支援員制度」を設立し、希望した研究者10名全員（うち2名は男性）に対して実験・調査の補助等を行う研究支援員を配置している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 全学経費削減推進会議等において、削減が図られている部局の取組事例を紹介するとともに、新たな方策として複写枚数及び光熱水量の実績を毎月各部局に情報提供することにより、節減意識の向上を図り、複写経費等を対前年度比 62 万円削減している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「鳥取大学ホームカミングデー」を初めて開催（参加者数 250 名）し、OB である食品関連会社社長による講演会、各学部施設見学、同窓生への現状説明を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「鳥取大学事業継続計画（BCP）」を策定しているほか、東南海・南海地震等の大規模災害の発生に備えて、中国地区国立大学連携による大学間連携・事業継続計画について協定書締結の準備を進めている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 13 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 医学部では、7 大学（順天堂大学、島根大学、鳥取大学、岩手医科大学、東京理科大学、明治薬科大学、立教大学）共同事業である「ICT（Information and Communication Technology）と人で繋ぐがん医療維新プラン」において、「山陰がん認定医療スタッフ育成インテンシブコース」を設置し、「山陰がん認定医療スタッフ育成インテンシブコースセミナー」を開催（計 9 回、延べ参加者約 100 名）している。
- 大学教育支援機構の教育センターでは、習熟度・達成度に応じた外国語教育として、「英語によるビジネスへの導入」、「現代的なテーマについての英語での議論」、「英語によるプレゼンテーション力の養成」等を目標に、2 年生以上の英語上級者を対象とした「英語上級」を開講している。
- 大学教育支援機構のキャリアセンターでは、14 大学連携「中国・四国産業界の人材ニーズに対応した協働型人材育成事業」において、「協働型インターンシップのモデル的プログラムの開発・試行」等の産業界が求める人材を育成する取組を開始している。
- 全学体制による学部の壁を越えた教員養成を実施するため、鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会の協力を得て、新たに大学教育支援機構内に「教員養成センター」を設置し、教育実習方法の更なる高度化の推進と質の高い実践的指導力を有する教員の養成に取り組んでいる。
- 菌類きのこ遺伝資源研究センターでは、「鳥取大学遺伝資源バンク」を開設し、保有する菌株を分譲して活用を促進しているほか、エルサルバドルと共同できのこの図鑑「Mushrooms of El Salvador」を出版するとともに、グローバル COE プログラム公開シンポジウム「きのこを知り、きのこを利用する」等を開催している。
- 医学部では、「レーザー光と高速稼働ステージの精密制御による高効率細胞融合回収自動化装置の開発」（経済産業省・戦略的基盤技術高度化推進事業）において、中小企業等と協力して研究開発から試作まで取り組むプロジェクトを開始している。
- 経済産業省主催「デジタルコンテンツ EXPO」において、工学部応用数理工学科の「ヒット現象の数理モデル」が Innovative Technologies を受賞し、研究成果を展示発表している。
- グローバル人材育成を推進するため「グローバル人材育成推進室」を設置し、駐日エチオピア大使らを招き「サミットレクチャー」を 2 回開催（参加学生延べ 55 名）しているほか、新たに英語研修プログラム（台湾・銘傳大学、参加学生 20 名）を実施している。
- 附属特別支援学校において、地域学部の教員を講師に、新たに県内の保育士を含む学校の教員を対象とした「特別支援教育研修会」（年 6 回開催、参加者計 204 名）を開設し、支援方法や特別支援教育に関する情報を提供している。

共同利用・共同研究拠点関係

- 乾燥地研究センターでは、拠点機能の強化として「乾燥地植物資源バンク室」を設置し、耐乾性油料植物ジャトロファの優良系統をメキシコ国立農牧林業研究所（INIFAP）から新たに 21 系統（延べ 39 系統）受け入れ、資源植物の保存・増殖のみならず、耐乾性品種等の創出に向けた取組を開始している。

附属病院関係

（教育・研究面）

- シミュレーターを使用した臨床技能のトレーニングを通して、医学・医療教育における知識・技能・態度をバランスよく身に付けることを目的とした「ベーシックシミュレーションセンター」を開設し、授業、研修及び自己学習に活用するとともに、専属スタッフが臨床医学実習入門等の教育プログラム構築のサポート等を行っており、延べ2,052名が利用している。

（診療面）

- 救命救急センター及び総合周産期母子医療センター（新生児部門）を救命救急センター棟へ移転し、救命救急センターの病床数を10 床から15 床に増床するとともに、新生児集中治療室（NICU）の病床数を9床から12 床へ、新生児室（GCU）の病床数を9床から15 床へ増床して、入院体制を強化している。

（運営面）

- 省エネルギー推進のために平成 21 年 4 月から実施している ESCO（Energy Service Company）事業により、平成 24 年度は平成 16～18 年度実績に対して、エネルギー消費量 13.8 %、CO₂ 排出量 17.3 %、光熱水費 12.2 %の削減率となっている。